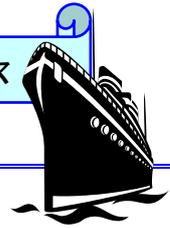


[貨物]

MS&AD Marine News

トピックス



狙われる美術品と高価品～盗難リスクへの備えを万全に～

近年、世界各地で美術品や宝石・貴金属類・高級腕時計などの高価品を狙った盗難事件が多発しています。美術館、銀行、高級時計店など、厳重な防犯態勢が整っている施設であっても、盗難のリスクを完全に排除することは難しい現実が浮き彫りになっています。国際的な窃盗団や組織的犯罪の関与が疑われるケースも増えており、美術品や高価品を取り扱う事業者や所有者にとってリスク管理の重要性がこれまで以上に高まっています。

1. 海外で発生した美術品・高価品の盗難事件

(1) フランス・ルーブル美術館の事例

世界的に注目された盗難事件の一つとして、2025年10月にフランス・ルーブル美術館で発生した、ナポレオンが所有していたとされる宝石類の盗難事件があります。この事件では、開館時間中に展示ケースから宝石が持ち去られるという大胆な手口が用いられ、美術館の警備態勢や管理方法が議論を呼びました。

ルーブル美術館は世界最大級の美術館であり、歴史的・経済的に極めて価値の高いコレクションを所蔵しています。この事件は、国家の威信を背負い、高度な警備態勢を備えた施設であっても、盗難のリスクを完全に排除することは困難であることを示したものとされます。

(2) ドイツ・銀行貸金庫盗難の事例

ドイツでは2025年12月末に銀行の貸金庫で多数の高価品が盗難に遭う事件が発生しました。窃盗団は、夜間にドリルで壁を破壊して地下貸金庫施設へ侵入し、大量の宝石や現金等が盗まれました。

2. 日本における宝石・貴金属類盗難と近年の傾向

(1) 過去の代表的な事例

日本においても、過去には宝石・貴金属類を狙った国際的な窃盗団による盗難事件が発生しています。代表的な例としては、いわゆる「ピンクパンサー」と呼ばれる国際窃盗グループによる一連の宝石店強盗事件です。犯行は短時間で行われ、警備員や警報装置が作動する前に現場を離れるケースも多く、被害額が多額に上る事例が相次ぎました。

(2) 近年の盗難事件

近年では、トクリュウ（匿名・流動型犯罪グループ）の関与が疑われる質屋や高級時計店を狙った強盗事件も報道されています。これらの事件では、実行犯が固定化されておらず、事件ごとにメンバーが集められ、突発的かつ凶悪な犯行に及ぶケースが増えており、従来型の盗難対策だけでは防止が難しい場合があります。

美術館や宝石店が標的とされやすい背景には、盗品そのものの鑑賞価値だけでなく、貴金属を溶解した場合の素材価値や、分解・解体によって得られる原材料としての価値が存在します。この点も、犯罪者にとって魅力的であるためです。

このような状況を踏まえると、宝飾品や高価品を取り扱う事業者や保有者にとって、物理的な防犯対策に加え、盗難発生時の損害をどのようにカバーするかという視点を含めた、総合的なリスク管理が一層重要になっています。

3. 美術品・高価品リスクに対する対策

近年の盗難事件の多発は、美術品や高価品を取り扱う事業者や所有者にとって、これまで以上に高度な防犯態勢とリスク管理の必要性を示しています。

盗難リスクを完全に排除することは困難ですが、盗難発生時に警察への通報や被害品目の確定などを速やかに行えるよう、また被害を最小化できるよう、様々な対策を講じることが不可欠です。

- ①最新の監視技術の活用：AI 監視カメラや侵入検知センサーの導入により、異常の早期把握を可能にします。
- ②施設構造の見直し：出入口や展示ケースの設計、耐久性の向上、セキュリティゾーンの設定など、防犯の物理的基盤を強化します。
- ③従業員教育と訓練：従業員に対する防犯意識の啓発や緊急時対応訓練を定期的を実施し、人的基盤を強化します。
- ④事前の情報管理：取り扱う美術品や高価品の詳細情報を精密に記録し、盗難時の迅速な追跡や回収を可能にします。

こうした対策は、リスクを最小化し、安心して事業運営や資産管理を行うための重要なステップとなります。適切な対策を講じることによって安心して資産を保有・管理する環境を整えることができます。この機会に防犯態勢やリスク管理の現状を改めてご確認いただき、改善・強化の余地がある部分について、さらなる態勢整備を検討されることをお勧めいたします。

<参考文献一覧>

保険毎日新聞 2025年12月24日・25日

以 上